助成者	思 沁夫	活動期間	2014年4月~2016年3月
所属機関	大阪大学グローバルコラボレーションセンター	職名	特任准教授

モンゴル国ウブルハンガイ県オンギ川流域における柳林保護 および越冬用飼料(草)の栽培に関する協力活動

【活動場所】 モンゴル ウブルハンガイ県オンギ川流域ツァガンボルガソ

【事業目的】 ウブルハンガイ県オンギ川流域は、地域の固有種である白い柳で覆われており、生態環境保護の役割を担ってきた。しかし1990年代初頭の社会主義制度崩壊に伴い管理組織が消滅し、白い柳は人間や家畜に無秩序に利用され柳林は80%減少し消滅の危機に立たされている。本事業は、白い柳林の回復作業を行うとともに、遊牧民の環境保護組合へ技能及び知識の共有を通じて組合活動の自立を支援し、遊牧民の生活の安定化を図ることを目的に実施する。





【活動内容】

- ①白い柳林の植林及び保護柵の設置:10kmの保護区域の残り5km分保護柵を設置
- ②保護区域の生態環境調査:保護区域での生態環境改善を確認
- ③事業の広報活動: テレビ(ETV)、ラジオ(中国中央ラジオモンゴル語放送)、新聞(モンゴル通信社)を通じて、環境保護活動の意義と活動状況を発信
- ④環境教育活動:遊牧民への研修、地元小学生への環境学習、日本の大学生による 現地視察と交流、モンゴル大学生への講義

【活動成果】

柵の設置と研修は計画通り進み、組合の環境保護活動へ貢献ができた。メディアへの広報活動などが功を奏し、現地活動主体の保護組合が、ウブルハンガイ県よりモデル組合として選出され、担当者も表彰を受けた。成果として最も大きかった事は、柳林の保護というひつつの活動を通じて、組合員と地域住民へ、地域の保全と持続可能な成長へ繋がることを共有できたことである。このことは、今後地域全体へ環境保護活動を浸透させていくなかで、大きな前進であった。